



# 奈落に吠える

5月23日

Sudden Fiction Project

高階 經啓  
hirotakashina

## 5月23日のおはなし「奈落に吠える」

ムテクは腹に据えかねた。三日月形をした刀を手取るやいなや坐台を倒す勢いで立ち上がり、チャデパの外に出た。風は相変わらず強くチャデパの日よけ布が激しくブルブルと音を立てて振動していた。愛馬のホーレスはムテクの口笛を聞くや蹄の音を軽快に響かせ近寄ってくる。ひらりとその背に飛び乗るとムテクは隣村に向かった。

誰もムテクのように馬の背に飛び乗ることができない。誰もムテクのように疾く馬を駆ることはできない。誰もムテクのように一度に多くの敵を倒すことはできない。誰もムテクのように人々を恐怖に陥れることはできない。馬を駆り馬を駆り、ムテクはいっさんに隣村を目指す。そこにはかつて愛した女もいる。けれどももう誰も生き残ることはできないだろう。

ムテクを怒らせてしまったからだ。激怒するムテクの前には男も女も年寄りも赤ん坊も関係ない。死、あるのみだ。それが残忍だというのならお前たちのしでかしたことは何だ。たくさん家畜が飢えて死んだ。八万頭の牛、十万羽の鶏、五千頭の馬、二万五千羽の兎。ホーレスとて今は元気に走っているが、いつ病に倒れるか分からない。

原因不明だと。不明なものか。お前たちが撒き散らしたのだ。金に目が眩み魂を売ったお前たちが病を撒き散らしたのだ。手をつけてはならぬ神々の山を荒らし、妖しい光を放つ石を掘り出して、異国の商人に高く売りつけ、挙げ句どうなった。隣村ばかりかあたり一帯を守る神々が姿を消し、代わりに呪い神が住み着いた。病と老いと死と飢えと渴きをもたらし。ムテクの村の人々はばらばらになって散って行った。家族を失い、家畜を失い、作物を失い、活力を失い、耐えきれず去って行った。どこか遠くの土地に去った者もいたが、命を絶つことでこの世から去った者も多い。どこに行こうと病を広めるだけだ、と死ぬ前日に語ったのはムテクの幼なじみのゲンリョウだ。ゲンリョウは鷹狩りの名人だった。頭の回転が早くゲンリョウが冗談を言うと仲間腹を抱えてのたうち回った。どんな苦境でも笑い飛ばす男だった。そのゲンリョウが自分で自分の首を刎ねて死んだ姿を見てムテクは大地が裂け、すべてが果てしない奈落に落ちて行くのを感じた。あたりはみるみる光を失い、ひんやりと湿った闇に包まれ、ごうごうと魔物が吠え猛るのが聞こえた。

ホーレスがつまづき、ムテクは放り出される。地面に叩き付けられ、身体を起こすことができないムテクの目の前で、ホーレスはぜいぜいと喘ぎ口から泡を吹き、それでもムテクに潤んだ目を向けまだ行けますまだ行けますと訴える。けれどそれは長く続かず、急激にその目の輝きが失せ、大きく喘いだかと思うとホーレスは息を引き取る。最期に喉の奥底でごろごろと魔物の雄叫びめいた音を響かせ。

ようやく身体のしびれが取れてムテクが身を起こすと、いつの間に着いていたのかそこはもう

隣村で、どうやら愛馬の背中で気を失って運ばれていたらしいことに気づく。頭を振りながらムテクは用心深くあたりの様子を窺う。村には誰もいない。あちこちに家畜が倒れ、家という家の戸口に死者がいることを示す赤い布のハブリヨが貼られているのはムテクの村と同じだ。

雨が降り始める。病を広める呪われた雨が。全身ずぶ濡れになりながらムテクはまだ立ち上がることができない。雨にかすみ溶けて行く村を見ながらもうここには敵などいないことをムテクは悟る。ぎらぎらとした目は睨みつける相手を見つけられない。敵はどこにいる。俺たちの本当の敵はどこにいるか。吠えるムテクの頬を濡らすのは雨だけではない。

（「俺たちの本当の敵はどこにいるか」 ordered by atohchie-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro）

## 新作スタート。お題募集中。

---

2011年10月1日。

Sudden Fiction Projectの新作発表が始まりました。

1日1篇ペースをめざしていますが、これはどうなるかわかりません。  
毎日、その日のお題を見て、いきなり書き始めていきなり書き終わる。  
即興的に書くSudden Fictionをこれからお楽しみください。

お題募集中です。

「[急募！お題](#)」のコメント欄で受け付けています。  
どなたでも気軽にご注文ください。初めての人、大歓迎です。

(お題の管理上、TwitterやFacebookでは見逃しがちなので、  
どうか上記コメント欄をご利用ください)

それではこれからしばらく新作のシーズンをお楽しみください。

※発表済みの作品をご覧になりたい方は  
「[SFPインデックス \(ただいま作成中\)](#)」  
をご活用ください。

## 奈落に吠える

<http://p.booklog.jp/book/37099>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/37099>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/37099>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.